

## 崩壊熱評価ワーキンググループ議事録

開催日時： 平成2年7月25日 13:30 ~ 17:00 (原研東海研究所)

出席者： 中嶋(法大), 田坂(名大), 片倉(原研), 吉田(東芝)  
三輪(オブザーバー, 名大)

配布資料： a. ANS5.1委員会での配布資料(片倉委員)

議事：

### I. 報告事項

(1) 今年6月、テネシー州Nashville で開催された米国崩壊熱基準ワーキンググループ会合(ANS5.1委員会)への出席報告が、片倉委員よりあった(資料：a)。現在、基準値の見直しを行っており、1993年頃までに見直しを終了させる計画とのことである。

### II. 討議事項：

(1) FP崩壊熱に関する作業計画に就いて

「原子炉崩壊熱基準」委員会の作業が収束したので、今後の作業計画に就いての討議を行った。当面の具体的作業と主な担当は以下の通りとすることになった。

イ。「原子炉崩壊熱基準」委員会作業の一環として行った誤差評価を纏め、レポートとする。(片倉, 飯島)

ロ。FP中性子吸収効果表示式の見直しと改良(田坂)。

ハ。これまで未着手だったベータ線スペクトルの計算をはじめめる。ガンマ線スペクトル計算用に作成したGross Theoryコードを改良、当面は全てallowedとしてやって様子を見る。また、測定データはPROFP用のオリジナルテープを捜し出してこれをつかう。(名大グループ, 片倉, 吉田)。

ニ。端慶覧委員の崩壊熱計算コード(FORTRAN版)の纏めとパブリケーション。

(2) 今後の展開

上記作業を終了するとFP崩壊熱に関しては、当面の課題はクリアーしたこととなる。また、FP崩壊データファイルの第3版の作成に着手する理由ないし動機は今のところ強くない。当ワーキンググループは、これまで案件となりながら着手できずにいた、遅発中性子データの収集評価とアクチニド崩壊熱計算データの収集評価を作業スコープに含め、今後の展開を計ってゆくことで一致した。